

|     |                                       |
|-----|---------------------------------------|
| 名 称 | 大野子ども体験活動・ボランティア活動支援センター              |
| 所在地 | 〒739-0478 広島県廿日市市大野 1328 番地 大野公民館内    |
| 連絡先 | TEL : 0829-20-0001 FAX : 0829-32-5163 |

## 地域の現状・特色

活動対象地域の人口 広島県廿日市市大野地域 27,000人

広島県西部に位置する廿日市市は、平成17年11月、廿日市市・旧宮島町(世界遺産宮島)・旧大野町が合併し、人口11万8千人、海のめぐみ山の緑に包まれた自然の豊かさを残しながらも近代的な都市機能を備えた中核都市として発展しつつある。合併後も、各地域の持ち味を活かし、産業・観光に力を注いでいる。

大野地域では、平成14年に「子どもが輝くまちづくり」をスローガンに掲げ、官民協働で未来を担う子どもたちを育むため、大野子ども体験活動・ボランティア活動支援センターを開所。合併後も変わらず廿日市市子どもの居場所づくり事業と連携して活動を続けている。

## コーディネートした事例の名称、概要、特色

名称 「ボランティアって何だろう？」 ～学びを還元 小学5年生総合学習の講座講師～

大野子ども体験活動・ボランティア活動支援センターの活動から生まれた“子どもたち自らが考え仲間と共に活動する”大野子どもクラブ「ビッグ・フィールド大野隊」は、活動そのものより活動を始めるまでの過程を大切に、失敗することも学びのうちと捉え様々な活動をしている。

地域の大人の方たちには「見守り隊」となって、「子どもたちをお客様にしない」「使う前より美しく」をモットーに子どもたちの自発性が育つよう、子どもたちが考え行動する様子をじっと待ちなるべく手出し・口出ししないよう見守っていただくようお願いし、活動を継続している。

その結果、子どもたちは様々な体験活動やボランティア活動を通して自己肯定感や役立ち感を体得し、現在では、“学んだことを仲間や地域に還元する”ことを念頭に入れ、学びの定着や感謝の気持ちを活動で表せるよう、場の設定を心がけている。

体験活動の内容としては・・・

他地域の小学校で総合学習の時間を使って「ボランティア活動」についての学習を展開することとなり、その導入部分として「ボランティアって何だろう？」という講座をビッグ・フィールド大野隊の中学生が受け持つこととなった。

## コーディネートの実際

他地域の小学校から総合学習の時間を使って「ボランティア活動」について学習するため、その導入部分として、分かりやすくボランティア活動について話してくれる講師の紹介を学校から依頼された。

「ボランティアって何？」という質問に対して、ビッグ・フィールド大野隊の活動そのものが答えではないかと話している中学生を見て、子どもからの質問には子どもの感性で話することが気持ちを一番伝えられるのではないかと思った。そこで、学校に連絡し、講師が中学生でも良いか打診。快諾をいただき早速日程調整をした。幸い中学生に代休の日があったため、実現することができた。

様々な大会に参加し自分たちの活動を伝えるためにみんなで作ったパワーポイントを小学生向きに編集し直して講座に臨んだ。導入のためのゲームや、自分たちで漬けたラッキョウ漬の土産を準備し、中学3年生5人と中学1年生3人の計8人が緊張の中、講義を開始。

元気あふれる子どもたちを前にどう授業を進めるか、少々不安であったが、子ども同士の強味かあつという間に和気藹々の仲間づくりに発展し、2時間の授業時間は瞬く間に終了した。数日後送られてきた子どもたちからの作文に、感動を隠しきれない中学生の姿が印象的だった。

中学生が講師を務めることは本人たちにとって大きな学びであることは言うまでもないが、小学生たちにとっても身近な分かりやすい手本となったようだ。ボランティアの大切さや、体験による学びの確かさが伝わり良き交流となった。しかし今後同じような企画を進めるには、何よりも学校の理解と協力が不可欠であり、時間設定が一番難しいと思われる。



講師紹介「はじめまして」



質問の時間「はーい、先生！」

執筆者職・氏名：大野子ども体験活動・ボランティア活動支援センター

コーディネーター 川田 裕子